

学生による企画提案活動支援事業活動報告

事業名	絶滅危惧種カワバタモロコの保全と子どもたちを対象とするいきもの観察会
団体名 代表者	香川県立高松桜井高等学校理学部 田岡 小乃羽
事業の目的	「絶滅の恐れがある野生生物を守る⇒自然に対する社会貢献」、「自然を守る次世代の人材育成⇒子ども達の教育に対する社会貢献」が事業目的です。
事業概要	環境省作成のレッドリストでは、絶滅危惧種数が改訂の度に増加し、平成25年2月には、淡水魚類評価対象種に対する絶滅危惧種の割合が42%となり、危機的な状況になっています。香川県でもカワバタモロコなど多くの淡水魚が絶滅の危機に晒されています。本事業では、過去事業からさらに絶滅危惧種の保全活動を充実し、アメリカザリガニ侵入によって絶滅の危機にある絶滅危惧種カワバタモロコの生息域外保全と外来種が侵入したため池の環境復元に取り組みます。
成果（参加人数等を具体的に記載してください）	
<p><絶滅危惧種カワバタモロコの保全></p> <p>7月～1月 生息池・保全池調査、カワバタモロコ移殖作業、ため池環境整備（池干し等） 3名×7回</p> <p>2021年5月、カワバタモロコ（環境省指定絶滅危惧IB類）が生息する東讃地区のため池（以下生息池と記す）の一つにアメリカザリガニが侵入し、カワバタモロコの生息が危機的な状況に陥りました。絶滅回避するために高松桜井高校理学部と香川淡水魚研究会、地域の農業団体である鴨部東活動組織が協働して、保全移殖活動を実施しました。移殖水域は、太田中央公園せせらぎ水路と生息池周辺で繁殖が望めそうな池（以下保全池1と記す）を選びました。しかしながら順調に繁殖が進んでいた保全池1に2022年7月、アメリカザリガニの侵入が認められました。水草類はアメリカザリガニによって刈り取られ、再び絶滅の危険性が高まったために、保全池1上流側の保全池2に再移殖しました。あわせて高松市郊外に現在稲作で使われておらず、水位操作ができるため池を確保し、水草を移植してカワバタモロコが繁殖が可能なため池環境にすることを目指して、水質改善のための池干しを約10ぶりに池主、地域水利組合と協働して行いました。カワバタモロコは県下でも減少傾向にあり、積極的な保全を行うことで今後も絶滅回避に努めたいです。</p>	
<p><太田中央公園せせらぎ水路での地域住民・子どもたちを対象とするいきもの観察会（観察学習会）></p> <p>8月21日（日）観察学習会 一般参加者 36名 （他に、理学部員5名、生徒会2名が運営STAFFとして参加）</p> <p>水生生物保護のための場所として活用している太田中央公園せせらぎ水路で観察学習会を行いました。観察学習会は、本校理学部員が先生役を務め、自然に触れることが少なくなった近隣の小学生などを対象とし、絶滅の恐れが高い生き物を実際に観察し、理解を深めてもらう活動として行っています。外来生物であるコイ（日本産でない）の生息環境への攪乱（稚魚や水生昆虫や貝類などを食べ尽くしてしまう）が大きく、カワバタモロコの繁殖は確認できませんでした。コイは国際自然保護連合が定める世界の侵略的外来種ワースト100に指定されています。一方、市民がコイへのエサやりなどで憩いの場としての役割を担っている経緯があり、今後コイの扱いについて考えていくことが課題となっています。</p>	

